

懐かしの
アルバム佐浜のナウマン象の
骨出土現場

▽浜名湖東岸の伊佐見地区は、考古学の分野で日本の歴史のはじまりを物語っているところといえます。▽それは、今から数十万年前にこの辺りに生息していたであろうナウマン象の骨の化石が数多く出土したからです。▽ナウマン象の化石は旧伊佐見村から数点発見され、1番古い時代の発見は明治初期といわれていますが、考古学界が注目したのは大正10年の出土でした。▽浜名湖畔の佐浜町は耕地が狭く農産物の収穫も多くありませんでした。▽そうした状況を改善していこうと内山又十(天竜区二俣)が新田開発を計画。▽佐浜地区の山を崩して、大正10年に湖面の埋め立て工事を進めました。▽その土取り場からナウマン象の骨が発見されました。▽造成された土地は内山新田と呼ばれ、村の発展に弾みをつけましたが、造成工事には莫大な費用がかかりました。▽ここに掲載した写真は、ナウマン象の骨の発見時に撮影したもので、大きなトラックが敷設され作業員も30人近く写っています。



(資料提供©神谷昌志)

おいしいをつくりましょ。


JAとぴあ浜松